

学芸会

「がんばった学びikai」 一年 おぼら ことね
 ほんばんのげきをしました。おかあさんとおとうさんがいて、どきどきしました。はじまるまえ「人」の字を手にかいたら、どきどきにならなくなりました。まちがえたところもあるけど、がんばりました。

「がんばったよ」 二年 大山 新太

ぼくは、ホットケーキのやくをしました。大きな声でせりふを言うのと、「まっつくれー」のうたを元気よくうたうようにがんばりました。本ばんはどきどきしたけど、おとうさんとおかあさんにほめられてうれしかったです。

「学芸会をおえて」 三年 大山 ひなた

十月二十四日に学芸会をしました。わたしは大臣やくだした。コロナの中での練習は、マスクをしていたので大変でした。学芸会の下見では、ほかの子はじょうずだったけど、わたしはしっばいしてしまいました。だけど本番はともじょうずにできてよかったです。来年は、どんなげきをやるのか今から楽しみます。

「がんばったこんぎつね」 四年 川畑 雄誠

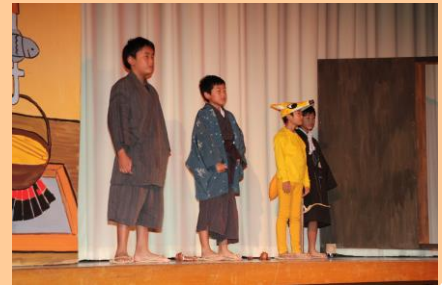
ぼくは、四年生の四人で「こんぎつね」をやりました。「こんぎつね」はとてもかなしいお話です。ぼくの役はごんです。ごんの気持ちを表げんできるようにえんじました。弟はげきを見て、感動して泣いたそうです。うまくえんじられたのかなと思ひ、うれしかったです。

「本気で演じた学芸会」 五年 市川 嬉助

ぼくが演じた役は、最初は意地悪な感じで、最後はいやつになるの、ちがいをだすのが大変でした。声の大きさを、せりふのないところの演技に気がつけました。難しかったけれど、本気で演じることができたと思います。来年もいい劇にしたいです。



初めての学芸会



役になりきった演技

「夏の庭」

今年の劇は少し重い内容で、難しかったです。親しい人との突然の別れは、これからの人生で絶対に経験する事だと思ひます。その時、自分がどんな風にも乗りこえていけばいいかを考えさせられました。何よりも最後の学芸会が、みんなとできてよかったです。

六年 小原 瑛太

「すばらしかった学芸会」 保護者 青木 里美

学芸会を、毎年楽しみにしています。我が子は今年六年生。せりふも多いし、なかなか難しそうなお話です。始まってみれば、みんなとても立派な演技。一生懸命に練習した様子が感じられて、胸がいっぱいになりました。今年もよい学芸会でしたね。

「見応え抜群！学芸会」 保護者 川畑 さやか

私が小学校の時、一つのせりふを争うオーディションがあった。「可哀そう。」これだけのせりふだ。私が言う先生が「ダメ！次。」と言ひ、私は落ちた。六年間その他大勢の役しかやれなかった。恵田つ子は必然的だがせりふが多い。必死で台詞を覚える姿は微笑ましく、堂々と演じる姿はカッコいい。羨ましい限りだ。来年も飛躍する姿に期待したい。

修学旅行

「修学旅行」

私は修学旅行を四月からずっと楽しみにしていました。でも新型コロナウイルスによって行けるかどうか不安でした。それでも、たくさんのおかけで行くことができました。修学旅行では、歴史や文化を体で感じ、仲間たちと楽しい時間を過ごすことができ、忘れられない思い出となりました。

六年 阿部 桃華



正倉院の前で



ダイオウゲソクムシと
いっしょに

マラソン大会

「九びょうのかべ」

マラソンの練習をほうかの時間にやりました。し走会でタイムをはかったら、新きろくまであと十秒でした。だから本番に新記ろくが出るように、死ぬ気で走りました。でも、新記ろくのかべは大きかったです。新記ろくまであと九秒でした。とてもくやしかったです。四年生になったら新記ろくをせつたい出したいです。

三年 朝井 太陽

「成長の結果」

気が付くともう六年生になっていました。マラソン大会の練習の話を聞いてみると、なかなか良い順位には入れないとのこと。頑張つてほしいと、ひそかに我が子を応援していました。校庭に帰つて来る子供たち一人一人を見てみると心から一人一人を応援してしまいます。「みんな大きく成長したね。すばらしいぞ、恵田つ子フォーティーセブン。」

保護者 市川 自然